

〈研究ノート〉

## 日韓のキリスト教文化のことばの使用について

李 明 心

キーワード：キリスト教文化, 日本, 韓国, ことば, インターネット

### 1. はじめに

日本語と韓国語の中にはキリスト教文化から来たことばが多数使われている。たとえば、最近、よく耳にする「目からウロコ」や「洗礼」, 「福音」などが挙げられる。キリスト教の歴史は日本の方が韓国より200年余り長い, キリスト教信者数は韓国が29.2%で日本の0.9%より多い。

本論では、異なるキリスト教の歴史や現状を持つ日韓のキリスト教文化のことばの使用率について述べたい。

### 2. 調査方法

キリスト教文化のことばの使用についてインターネットを利用して調べた。しかし、日韓のWeb文書の数には違いがあるので、それぞれのWeb文書数を調べてその比率を出した。調査方法は田野村(2008)に沿ってgoogleを利用して行なった。その結果、Web文書数は韓国が日本の約2倍で、日本と韓国が1:2の比率となる。これを基にして、日韓のインターネット上のキリスト教文化のことばに対する使用率を調査した。調査するキリスト教文化のことばは、鈴木(2006)による聖書語をもって調べた。

### 3. 結果

以上、調査結果を図1, 2, 3で示した。図1では「聖徒, 黙示, 聖書」の3語を除いて日本の使用率が高い。この3語はいずれも宗教的な意味が強いと言えよう。

図2の日本の聖書語の使用では「神, 愛」の語が顕著で、「天使」, 「復活」, 「天国」がそれに続く。図3の韓国の聖書語の使用では特に「愛」の語が顕著で、「教会」, 「聖書」がそれに続く。

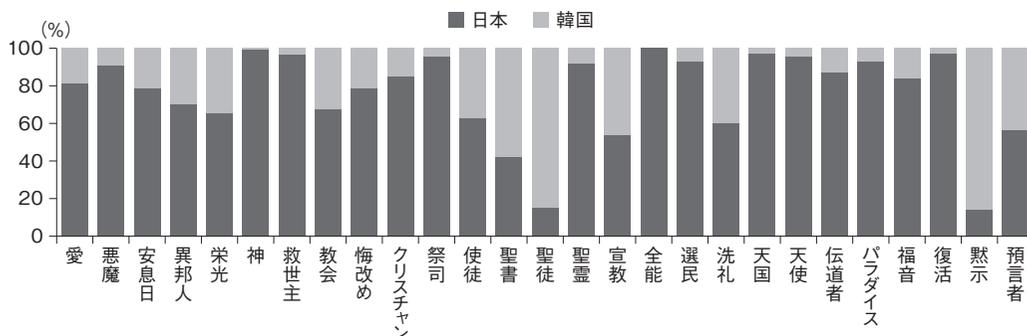


図1 日韓の聖書語の使用率

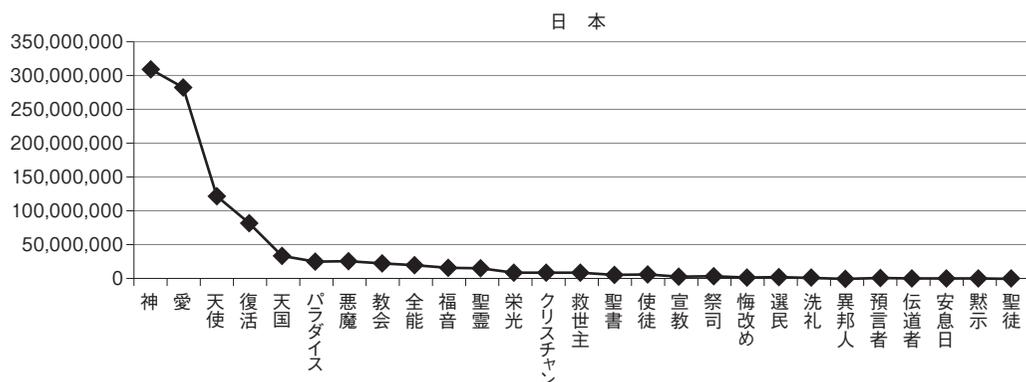


図2 日本の聖書語の使用

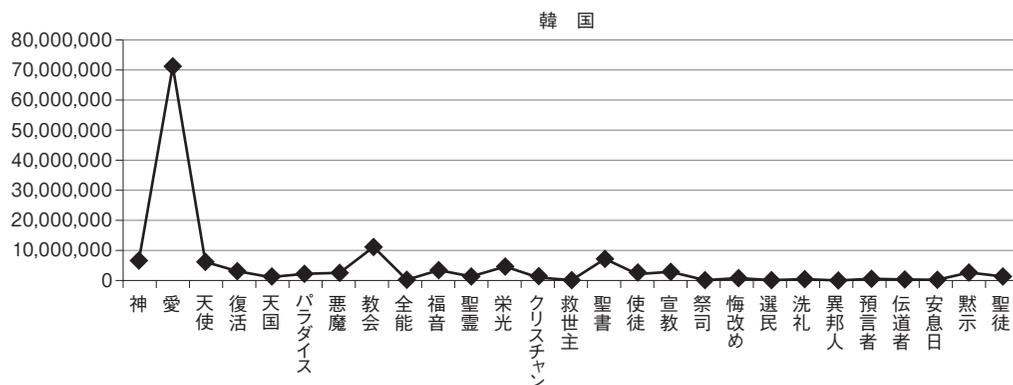


図3 韓国の聖書語の使用

参考文献

鈴木範久 (2006) 『聖書の日本語』 岩波書店  
 田野村忠温 (2008) 「日本語研究の観点からのサーチェンジンの比較評価—YahooとGoogleの比較を中心に—」  
 『計量国語学』 26-5 計量国語学会